
鉾山研究会

ニューズレター No.94

2014年3月28日

- 1 鉾山研究会研究大会・総会開催のお知らせ
- 2 第38回鉾山の映像を観る会 <予告> 丸山もとこ
- 3 海外鉾山文献読書会のご案内 丸山もとこ
- 4 写真展「足尾鉾山一産業遺産」のご案内 遠田義則
- 5 中山喬央氏への追悼
中山喬央氏様を悼む 久保敦子
中山喬央さんを偲ぶ 丸山もとこ
- 6 事務局から

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

メールアドレス ; murakushi@par.odn.ne.jp

電話・ファックス 0471-52-8952

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

1 鉱山研究会研究大会・総会開催のお知らせ

日時 4月26日(土)

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス、80年館7階
丸会議室

1部 研究大会(1時—5時)

研究報告(1報告約40分)

- ① 川俣修寿・金丸鉄也「水銀条約を契機に日本の水銀問題を考える」
- ② 友澤悠季「『問い』としての公害」を出版して
(「『問い』としての公害」、勁草出版、3500円)
- ③ 斉藤和美「1872年、ペンザンスの大島高任—コーンウォール鉱山景気の明暗」
(休憩)
- ④ 小野崎敏「ユネスコ世界文化遺産登録を目指している日本
鉱山遺産の取組みについて」
- ⑤ 土井徹平「最近の友子研究について」

Ⅱ部 総会(5時—6時)

① 2013年度活動報告 川俣修寿

13年度総会は、4月20日法政大学市ヶ谷キャンパスで開かれた。研究報告は、1. 藤田貢宗会員「最近話題になっている隕石について」、2. 中山喬央会員「日本列島における金属文化発生の一考察」、3. 市原博会員「オーストラリアにおける鉱業技師、鉱山支配人の人的資源形成」、4. 土井徹平会員「1910年代から30年代における北海道石狩炭田の労働市場—友子資料を用いた労働分析」

遠田義則会員が足尾の新作写真を展示した。来年をメドに「足尾歴史館」で個展を開催する予定。

総会は、村串仁三郎会長から、12年度活動報告、13年度活動方針案が説明された。会計報告は、久保敦子会計から12年度会計報告(総予算43万3602円)、13年度予算案(同53万3607円)の説明があり、いずれも原案通り可決成立した。

なお、村串会長から雑誌「鉱山研究」の投稿料について、「今年度は一応黒字の予算だが、嬉しいことに投稿が多ければ再び赤字に転落する可能性がないとも言えないので、もう一年様子を見

て無料化を検討したい」と説明があった。

人事は、現行どおり会長村串、会計久保、会計監査興野喜宣、事務局川俣が再任された。村串会長から、「若返り人事を進めるよう努力したい」と補足意見があった。

定例研究会は、11月9日、法政大学富士見キャンパスで例会が開かれた。第1報告者は菅井益郎会員で「田中正造歿100周年に際して『足尾一東電福島第1発電所事故を考える』」、第2報告は佐藤一男会員の「会津の鉱山と友子」だった。

鉱山の映像を観る会2013年活動報告

鉱山の映像を観る会は國學院大學渋谷キャンパスで3回開催した。2013年は田中正造没後100年に当るため、当会でも田中正造と足尾を積極的に取り上げた。

第35回鉱山の映像を観る会は5月11日（土）に行った（参加者11名）。前半は足尾関連映像として、「レールのあった街#9: C12 重連が運んだ銅の夢～国鉄足尾線～」(BS朝日、2001年放送)、「につぼん木造駅舎の旅：上神梅駅」および「同 通洞駅」(NHK BS1、2009年放送)、「風の言葉：若い力で山を緑に（栃木県日光市）」(TBS、2012年放送)を上映した。後半は田中正造の半生を描いた映画「襤褸の旗」（吉村公三郎監督、1974年）を上映した。

第36回鉱山の映像を観る会は10月19日（土）に行った（参加者14名）。前半は古河社で新たに発見された足尾銅山の16ミリフィルムを上映した（小野崎敏さん提供）。後半は住友の別子銅山を紹介するビデオ「大河」（長島節五さん提供）を上映した後、「その時歴史が動いた 田中正造、足尾鉱毒事件に挑む ～環境保護運動ここに始まる～」(NHK総合、2002年放送)など、田中正造関連映像を上映した。

第37回鉱山の映像を観る会は12月21日（土）に行った（参加者11名）。前半は、10月に採択された水俣条約に関連する映像として、「Asia Insight ミャンマー：知られざる金鉱山」(NHKBS1、2013年放送)、「クローズアップ現代 動き出した水銀規制～水俣の教訓をどう生かす」(NHK、2013年放送)、「シリーズ世界遺産100 水銀遺産アルマデン～スペイン～」(NHK、2013年放送)を上映した。後半は「閉山50年永松銅山を訪ねて（永松から足尾へ）」(渡辺広志制作、2013年)（小野崎敏さん提供）を紹介した後、

足尾鉍毒事件の1974年の状況を記録したドキュメンタリー映画「足尾74夏」（山口豊寧監督、1974年）を上映した。

海外鉍山文献読書会2013年活動報告

4月から新しく『Gold』（ロンドン自然史博物館刊行、1999年）を読み始めた。当会が1996年にスタートして以来、4冊目のテキストになる。メンバーは村田淳、斎藤和美、中山喬央、丸山、会員外から1名の5名で、原則として月一回、今年度はこれまでに10回（4/24、5/22、6/26、7/31、9/4、10/9、11/6、12/18、1/29、2/19）開催した。

恒例の伊豆巡検は事情により中止となった。

② 2014年度活動方針案 村串仁三郎

本会の活動は、2013年度活動報告にあるように、総会時の研究大会、定例研究会など一定の成果をおさめているが、定例研究会の回数が減少している。本年については定例研究会を総会時の研究大会を除いて2、3回は開催したい。

鉍山の映像を観る会は、昨年度は3回開催され、本会の活動として大きな成果となっている。引き続き「鉍山の映像を観る会」の開催が期待される。

会誌『鉍山研究』は、継続発行されているが、投稿者もやや固定しており、今後は、広く会員からの投稿が望まれる。

その他海外鉍山文献読書会の活動、恒例の伊豆巡検も引き続き行われることを期待される。

研究会の役員体制では、会長は、現在78歳、若い新しい会長に交代の時期に来ている。また事務局の川俣は、30年事務局の仕事を連続しており、また会計の久保も高齢に至っており、役員若返りが迫られている。総会においてこの問題が論議され、役員若返りがすすむことを期待したい。

③ 会計報告

2013年度会計と2014年度予算案については、ニューズレター発行時までには準備ができなかったため、総会時に報告し、結果を次のニューズレターで報告する。

2 第38回 鉱山の映像を観る会 <予告> 丸山もとこ

初めてイタリア映画を取り上げます。1956年にベルギーで実際に起きた炭坑火災を題材にした作品です。なぜベルギーが舞台でイタリア映画なのかというと、その鉱山ではイタリア人移民が大勢働いていて事故に巻き込まれたそうです。TVではなかなか放送されない作品です。この機会にぜひご鑑賞ください。

【日時】2014年5月31日（土）で会場を手配中です

【会場】國學院大學渋谷キャンパスを予定しています

【会費】無料

【上映内容】映画「インフェルノピロウ」（110分、イタリア、2003年）ほか詳細が決まりましたら、鉱山研究会のHP（<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/>）上でお知らせします。

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は、〈jmrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

3 海外鉱山文献読書会のご案内 丸山もとこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えていきます。

そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回のペースで行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Gold. ロンドン自然史博物館刊行、1999年。

【次回】調整中です（最新情報はウェブサイトでご確認ください）

【会場】JR田町駅周辺（参加希望者はご連絡ください）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

【ウェブサイト】<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/reading/>

【連絡先】 jMrs.dokushokai@gmail.com

【注意事項】 参加希望者は必ず事前にご連絡ください

4 写真展「足尾鉾山—産業遺産」のご案内 遠田義則

遠田義則会員が昨年の総会で報告した通り足尾で写真展を開きます。

写真展「足尾鉾山—産業遺産と自然」

場所・足尾歴史館、開催日・2014年4月1日—6月29日、時間・10:00—16:00

主な内容は、足尾鉾山の産業施設を主に冬季撮影したもので小滝、通洞選鉾所、古河キャスティック（旧工作課）、本山製錬所、足尾砂防ダム合流点、松木の6章構成で約40点。同歴史館は今年創立10周年を迎えるが、各種記念行事が予定されている。

5 中山喬央への追悼文

常にポジティブな姿勢、
碩学の先輩中山喬央様を悼む

久保敦子

五年前、同窓会で知人に先輩の中山様を紹介された。銀行を停年退職された後、大学院に入り、考古学を研究されているとのことだった。考古学と関連する鉾山学にも大変興味があるとのこと、早速鉾山研究会の入会をご案内した。

御話を聞いていると、かなり高いレベルの研究をされている様子で、考古学界では新説であるという貴重な論文も提出されているとのことだった。参考文献なども、自ら原著論文を翻訳して引用され、鉾山研究会の会報にも度々高度な論文を発表されていた。

鉾山研究会の例会や論読会などにも欠かさず出席され、常にアクティブな姿勢を貫かれていた。

印象深かったのは、千葉の市原市で、浜松中学（後の浜松北高）卒業生の有馬朗人氏の講演会に御一緒した時のことだった。昼食をとりましょうということで、近くのファミリーレストランに入ったが、他の人たちはハンバーグとか海老フライを注文するのに、中山様は“鯖の味噌煮”と言ったのである。一瞬驚いたが、同じ浜松の郊外で育

った私は、あのひもじい時代、鯖の味噌煮は最高の御馳走だったことを思い、“私も同じ”と叫んでいた。

中山様が浜松中学に入り、終戦で浜松北高と新制に変わった頃、浜松の街は艦砲射撃や、町中にばら撒かれた焼夷弾で、級友の大勢は住む家を無くし、また数人は爆撃の犠牲にもなった。新制九回の卒業生であった筆者は、学校も世相もやや落ち着いた頃に通学していたが、中山様と同じ軍隊帰りの教師に授業を受け、酷しい指導のもとで大学に入り、社会人となった。

鉦山研究会に入会していただいた後、中山様は常に慈愛のこもった優しい目で、私どもの背中から、活動ぶりを見守っていて下さった。危なっかしい不肖の後輩の行動を、さぞかしハラハラしながら見ていたことと思う。

鉦山研究会の会報への投稿もさることながら、スポンサーとして経済的な運営に大変協力いただいた。

常に積極的で、全く年齢を感じさせない活躍ぶりは、文学同人『まんじ』の編集長として、定期的に同人誌を発行し、筆者の同人誌との交流や出版記念会などにも積極的に参加して下さった。まさに、浜松人の“やらまいか精神”に貫かれており、筆者の誇らしい先輩だった。

二月の未曾有の大雪の後、雪かきをした後、突然亡くなったとのことだった。律義で几帳面な御性格であったことから、後身辺のことをきちんと整理され、後顧の憂いなく天に召されたことと知っている。

心より御冥福を御祈りしつつ。

春の雪学究の人今は無く 敦子

中山喬央さんを偲ぶ 丸山もとこ（海外鉦山文献読書会）

中山喬央さんは当読書会では一番の新人だけど一番高齢で、一番遠い所から参加しているのに一番乗りで会場に現われる熱心なメンバーだった。その中山さんが2月の読書会を無断欠席され、これはただ事ではないにちがいないと心配していたところ、その不安が的中してしまった。

中山さんが初めて読書会に参加されたのは2013年4月のことだった。まずはお試しということで見学のみ参加だったが、すでにやる気満々で、テキストを書店に発注済だった。中山さんはEメールとワープロは使えるが、普段はネットが使えない環境だということで、英語の専門用語を訳すのに苦労しておられたが、大学の図書館を使ったり専門用語辞

典を丸ごとコピーしたりして、むしろ他のメンバーより多めの量を自ら進んで担当するほど意欲的だった。1月の読書会でお会いしたときには、黒いリュックを背負って、これには資料のコピーがたくさん入るんですとニコリ笑っておっしゃっていた。

つい最近中山さんが編集された冊子に次のように書いてあった。

「ではどんな哲学で生き抜けばよいのであろうか。

自分の可能性に限界をひかない一身の程知らずにほかならない。行動に移す一無謀・無鉄砲に通じる。めげない一能天気。優先順位をつけ集中力を養う一有限の時間のなかで欲張って生きるには不可欠。

『まんじ第131号』（2014年2月1日発行）の「編集後記」の一部を引用

中山さんを見習いたい。

中山さんのご冥福をお祈りいたします。

6 事務局から

会員情報

退会者

オリバー・マイヤー、興野喜宣、中山喬央。

菊池今朝和氏の論文「内山（僧ヶ岳）鉦山」（日本黒部学会研究紀要『黒部』第20号掲載）の抜き刷りが10部送られてきましたので、4月26日総会の日にお持ちします。希望者はお受け取り下さい。

小野崎敏監修『今すぐ行きたい産業遺産』（竹書房、552円、2013年3月）。本会会員の小野崎敏さんが監修された『今すぐ行きたい産業遺産』（竹書房、2014年、552円）が3月に刊行されました。各地の著名な40カ所近くの産業遺産がきれいな写真と共に簡潔に紹介されています。

訃報 本会の会員中山喬央さんが2月に急逝されました。